

オオキンケイギク駆除

特定外
来植物 便ノ山で地元有志ら

紀北町便ノ山の県道周辺で、今年も特定外来植物に指定されているオオキンケイギクが咲き始め、地元有志らが駆除活動に取り組んでいる。

オオキンケイギクは

キク科の多年草で、5〜7月にコスモスに似た黄色の花を咲かせる。繁殖力の強い外来植物で、在来種を駆逐するなど生態系に悪影響を及ぼすため、環境省が2006（平



オオキンケイギクの駆除活動
(30日、紀北町便ノ山で)

成18)年に特定外来植物に指定し、栽培や運搬、販売を禁止している。

便ノ山では県道の緑化整備がきっかけで拡散し、官民一体で組織する町ボランティアグループ「交流空間みやま」田上至代表(58)が9年前から景観保護を目的に駆除している。

今年も30日に田上代表ら会員有志6人が一斉駆除活動を展開。新型コロナウイルスの影響で会員の動員を見合わせたが、中里の自動車部品製造会社「海洋ゴム」の社員12人が地域貢献の一環で参加し、種まき権兵衛の里駐車場を中心に約1時間の作業で45リットル3個分を駆除し、焼却処分した。

田上代表は「世界遺産の景観保護と銚子川の原風景を守る思いで始めた取り組み。地道な活動の成果で年々減

っているが、種の生命力が強くと立地条件や気象状況で開花する。来年度以降も継続した活動が大切になる」と話していた。